遠隔教育システムを用いた日本語指導の取組事例（愛知県瀬戸市）【参考資料3】

現状・課題

○　日本語指導が必要な児童生徒在籍校13校に対して、日本語教室が設置されている学校は５校であり、8校の児童生徒は、十分な日本語教育を受けることができていない。

取組概要

○　既に日本語教室が設置されている学校と未設置校を遠隔システムで接続し、日本語指導の充実を図る。

連携体制、実施学年

日本語教室設置校	日本語教室未設置校
瀬戸市立原山小学校 ・日本語教員2名 ・日本語指導が必要な児童43名の内、第4学年2名	**瀬戸市立祖母懐小学校** ・第3学年1名 ・第4学年1名 **瀬戸市立道泉小学校** ・第4学年1名
瀬戸市立萩山小学校 ・日本語教員2名 ・日本語指導が必要な児童32名	**瀬戸市立深川小学校** ・第3学年1名 ・第4学年1名

※配信側の日本語教員は、小学校教員で、県が日本語指導加配教員として配置している。
※日本語指導のみを担当。（週25時間程度）

※受信側には、市が必要に応じて、学校サポーターなどを配置している。

取組内容

・TV会議システムを用い、配信側の日本語教員が両校の児童に対して自作の資料を基に、日本語を指導する。
・受信側では、学校サポーターなどが学習を支援する。
・TV会議システムを通じて、相手校の様子の他、学習コンテンツや拡大提示装置の画像等が共有される。
・学習した日本語を使用して、互いにクイズを出し合う等、児童同士の交流も行われている。

・実証校の児童生徒は、日常生活に支障が出ない程度の日本語を話すことができる。
・ほとんど日本語を話すことができない児童生徒は、日本語初期指導教室がある学校へ１か月間通っている。

文部科学省　H30年度遠隔教育システム導入実証研究事業